

PC Kick Starter

HS-PCKS-01

取扱説明書
instruction manual





Home Systems



株式会社ホームシステムズ

安全上のご注意（必ずお守りください）

○誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次のように区分して説明しています。





 警告	取扱いを誤った場合「死亡または重傷を負うおそれがある」内容です。
 注意	取扱いを誤った場合「軽傷を負う、または物的損害を生じる恐れがある」内容です。



○お守りいただく内容の種類を、次の図記号で説明しています。

	してはいけない「禁止」の内容です。
	必ず実行して頂く「強制」の内容です。

警告・注意







○据え付け時のご注意

本装置をパソコンと接続する際は、必ずパソコンに電源供給が行われていないことを確認すること。	
本装置をパソコンと接続する際は、必ず本装置に電源供給が行われていないことを確認すること。	
本装置とパソコンをケーブルで接続する際には、+-の極性をよく確認して接続すること。	
本装置への電源供給電圧は直流 5 V です。誤った電源を接続しないこと。装置及びパソコンの破損・破裂・また火災等の原因になることがあります。	

<p>本装置に LAN ケーブルを接続する際は、正しく根元まで装着すること。</p>	
<p>本装置の取り付けに不安がある場合、必ずパソコンショップなどの技術者に取り付けを依頼すること。</p>	

警告・注意

○安全に使っていただくためのご注意

<p>本装置を水に濡らさないこと。本装置及びパソコンの破損・破裂・または火災などの原因になることがあります。</p>	
<p>本装置のケース開口部を塞がないこと。 本装置内に熱がこもって破損する場合があります。</p>	
<p>本装置を分解・改造など本来の使い方を逸脱した利用を行わないこと。本装置及びパソコンの破損・破裂・または火災などの原因になることがあります。</p>	
<p>異常時（こげ臭いなど）は、使用を中止して本装置およびパソコンの電源プラグを抜き修理を依頼すること。</p>	
<p>60℃を超える高温環境で使用しないこと。 ケースの溶解などにより本装置およびパソコンの破損、破壊、また火災などの原因となる場合があります。</p>	
<p>短時間で連続した電源ボタン・リセットボタンの動作制御を行わないこと。本装置およびパソコンの破損、破壊、また火災などの原因となる場合があります。</p>	

その他、安全に関してご不明な点などがございましたら、お気軽に弊社サポートにご連絡をお願いします。また、弊社 Web サイトにおきましてもサポート情報を提供しておりますのでご利用ください。

ごあいさつ

本製品は、パソコンの電源ボタン・リセットボタンをユーザにかわって操作できるツールです。

単純なリモコンとは異なり、複数台のパソコンの電源 On/Off 管理を同時に行うことができます。またパソコンのリセット、強制電源 Off にも対応しており、遠隔でシステム全体を管理するために役立つ機能を備えています。

更に、本製品にはカレンダー時計が内蔵されており、あらかじめユーザが設定した日時に自動でパソコンの電源ボタン・リセットボタンの操作を行うことができます。例えば、毎週月～金曜日の朝 7 時から夜 8 時まで電源を入れておきたいというようなニーズにも対応可能で、工場やリモートワークにおける労務時間の管理にも活用可能です。

パソコンは消費電力が比較的大きい製品です。遠隔操作で必要な時だけ電源 On することを可能とする本製品は、システム管理・リモートワーク時の労務時間管理だけでなく、地球温暖化対策にも役立つ製品であると自負致しております。

末長くご愛用頂きますようお願い申し上げます。

PC Kick Starter 開発チーム一同

更新履歴

2021.06.14	初版
2021.06.16	デバイスドライバについて追記
2021.06.18	一部訂正（もくじ、使用温度範囲、ソフトウェアの入手方法）
2021.11.29	電源供給に PC 付属の USB ポートを利用する場合の説明追記。

もくじ

安全上のご注意 (必ずお守りください).....	1
ごあいさつ	3
更新履歴	4
設置 (パソコンへの取り付け)	7
1. マザーボードと本装置の接続.....	7
2. 本装置と専用ケーブルの接続 (マザーボード側)	8
3. 本装置とパソコンの筐体 (パネル) の接続	8
4. USB ケーブルと LAN ケーブルの接続.....	9
5. USB ケーブルのパソコンへの取り付け	10
6. 本装置の設置場所について	11
7. 本装置への電力供給についての技術的な説明 (留意事項)	11
管理ソフトウェア (PC Kick Starter 管理ソフトウェア)	12
1. 管理ソフトウェアのインストール.....	13
2. 管理ソフトウェアの起動	14
3. 予備知識—グループの考え方.....	15
4. グループの作成.....	16
5. 装置の追加.....	17
6. 装置の設定.....	18
6-1. WiFi を DHCP で使ってみる。	19
6-2. 動作パターンの設定.....	21
6-3. タイマー	23
6-4. その他の設定	24
6-5. 装置の操作	26
6-5-1. デバイスドライバのインストール.....	27
6-6. 動作の確認	30
6-7. 設定の保存	33
7. 運用方法.....	34
管理ソフトウェアの機能 (詳細説明)	38
1. メイン画面	38
1-1. 装置の一覧表示	38
1-2. 右サイドボタン	43

2. 装置の設定	48
2-1. ネットワーク設定	48
2-2. 動作パターン	52
2-3. タイマー	54
2-4. その他の設定	58
2-5. 装置の操作	60
2-6. 閉じるボタン	63
その他	64
1. 対象パソコンの電源投入	64
2. パソコンの電源ボタンの動作	64
3. インターネット経由での本装置との通信	65
4. ソフトのアップデート	65
各種窓口について	65
1. サポート窓口	65
2. ご相談窓口	65
3. その他.....	65

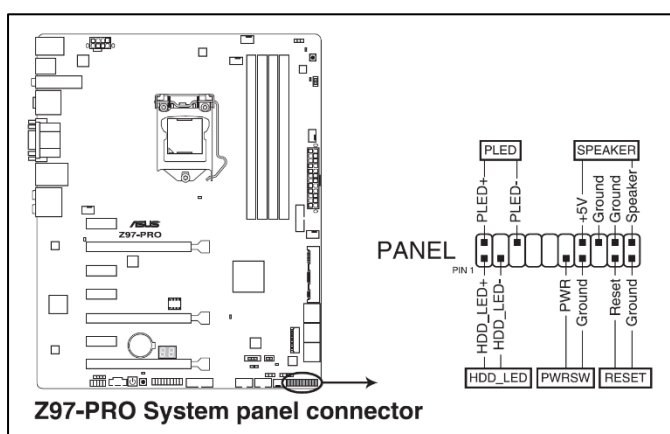
設置 (パソコンへの取り付け)

本装置の設置は、パソコンのマザーボードとパソコンの筐体の接続と同じ要領で行います。ここでは ASUS 製 Z97-PRO を例に取り付け方法を説明します。

基本的にマザーボードは比較的規格が統一されていますので、他メーカー製マザーボードでも同様の取り付け方法となります。(一部メーカー製パソコンを除く)

1. マザーボードと本装置の接続

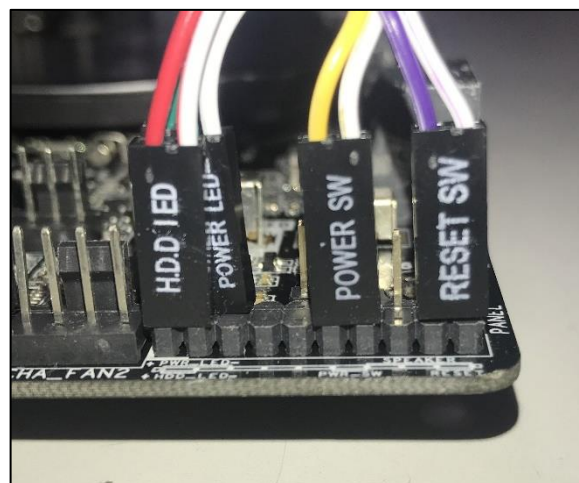
本装置に付属している専用ケーブルをマザーボードに取り付け方法を解説します。



マザーボードのマニュアルにパソコンの筐体 (ケース/パネル) に接続するコネクタの説明がありますので、これに沿って付属の専用ケーブルのコネクタを差し込みます。

HDD LED コネクタには極性(+/-)のマーキングがありませんが、赤色が+です。

(ASUS Z97-PRO 日本語マニュアル p1-41 より抜粋)



(本装置に付属する専用ケーブルのマザーボード側コネクタと、マザーボードに接続した状態)

2. 本装置と専用ケーブルの接続（マザーボード側）

次に、本装置と専用ケーブルを接続します。



本装置の MB に専用ケーブルの片側のコネクタを接続します。この専用ケーブルは、逆差しを防止する構造になっていますので、しっかり差し込める向きで接続します。

3. 本装置とパソコンの筐体（パネル）の接続

次にパソコンの筐体に付属するマザーボードに取り付ける側のコネクタを本装置に接続します。尚、パソコンの電源・リセットボタンの操作を本装置を介してのみ行う場合、この作業は必要ありません。お客様の管理手法や用途に合わせて接続有無をお決めください。



パソコンのケースから出ている配線を PANEL コネクタに接続します。

接続方法は、装置表面の図を参考にしてください。

4. USB ケーブルと LAN ケーブルの接続

本装置は USB を用いて初期設定を行いますので、初期設定時は付属の USB ケーブルを用いて本装置とパソコンを接続します。 また、有線 LAN をご利用の場合には LAN ケーブルも併せて接続してください。（WiFi のみでご利用の場合、LAN ケーブルの接続は必要ありません）

本体側面に USB ケーブルを接続するコネクタと、有線 LAN ケーブルを接続するコネクタがありますので各ケーブルを接続します。



(本装置の側面コネクタ)



(本装置に USB ケーブルと LAN ケーブルを接続したところ)

5. USB ケーブルのパソコンへの取り付け

初期設定時のみ、本装置をパソコンの USB ポートに接続します。
安定した電力供給のために、USB3 ポートへの接続をお勧めいたします。



初期設定が終わり、WiFi・有線 LAN による本装置との通信が行えるようになりましたら、パソコンから USB ケーブルを取り外し、付属の AC アダプタを介して本装置に電力供給を行うようにします。（初期設定については、この後のページで説明しています。）



※アダプタは AC100V のコンセントに接続してください。

6. 本装置の設置場所について

本装置は WiFi アンテナを内蔵しています。WiFi を利用される場合で、ご利用のパソコンの筐体内部が金属で囲まれたような構造である場合、筐体内部に本装置を置くと WiFi の電波がうまく届かない場合があります。この場合、本装置をパソコンの筐体内部ではなく、筐体外部に設置するようにしてください。

7. 本装置への電力供給についての技術的な説明（留意事項）

本製品に付属する AC アダプタではなく、マザーボードの設定(VSB)、もしくはパソコンが電源 OFF の状態でも電力供給が可能な USB ハブなどを介しても本装置を動作させることは可能ですが、本装置には万が一の機器故障に備えて、マザーボードと本装置を電氣的に絶縁状態とする光アイソレーション回路が内蔵されています。

マザーボードの設定(VSB)、もしくはパソコンが電源 OFF の状態でも電力供給が可能な USB ハブなどを介して本装置に電力供給を行うと、光アイソレーション効果は無効となり、マザーボードと本装置は電氣的に絶縁状態とはなりませんのでご注意ください。

また、ご使用の PC の BIOS 設定等によって、PC 起動時に USB ポートからの給電が一時的に停止する場合があります。この場合、本装置がネットワーク経由で時刻取得(NTP)を利用出来ない環境である場合、前述した USB ポートへの給電停止によって内臓カレンダーが初期化されてしまうため、タイマー機能が正常に機能しない場合がありますのでご注意ください。

管理ソフトウェア (PC Kick Starter 管理ソフトウェア)

本装置の設定・操作には管理ソフトウェア PC Kick Starter 管理ソフトウェアを利用します。

このソフトウェアは弊社 Web サイトにて提供させて頂いておりますので、ダウンロードをお願いします。 ご不明な点は弊社サポート(support@homesys.jp) までお問合せください。

弊社Webサイト

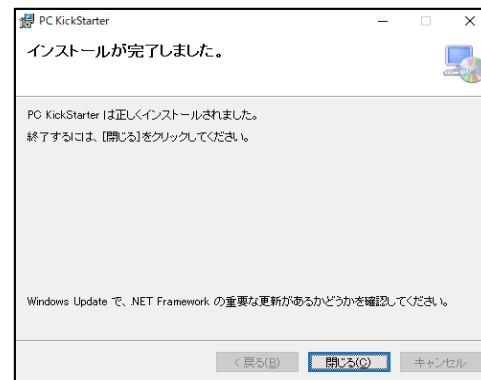
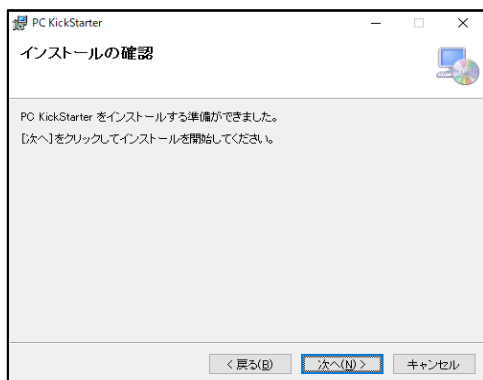
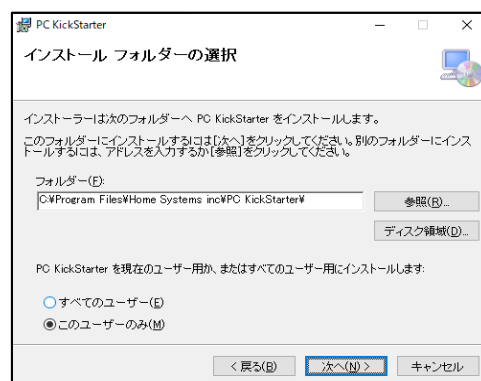
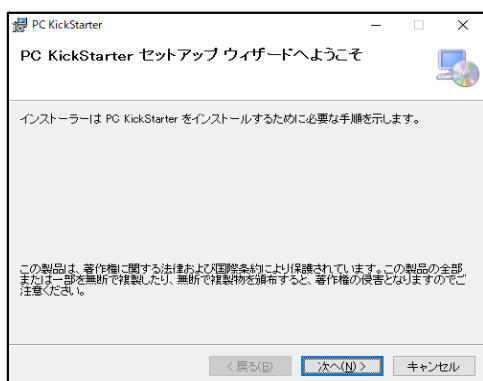
<http://homesys.jp>

1. 管理ソフトウェアのインストール

管理ソフトウェアにはインストーラが付属しています。
ダウンロードした ZIP ファイルに同封されております Setup.exe を実行してください。
(2021 年 5 月現在、Windows 10 64bit 版のみのご提供となっております。)

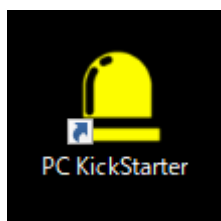
下記の流れでインストールを進めてください。

途中「不明なソフトウェア」の確認メッセージが表示されますが、認証を省略しているため表示されているだけです。そのままインストールを進めてください。

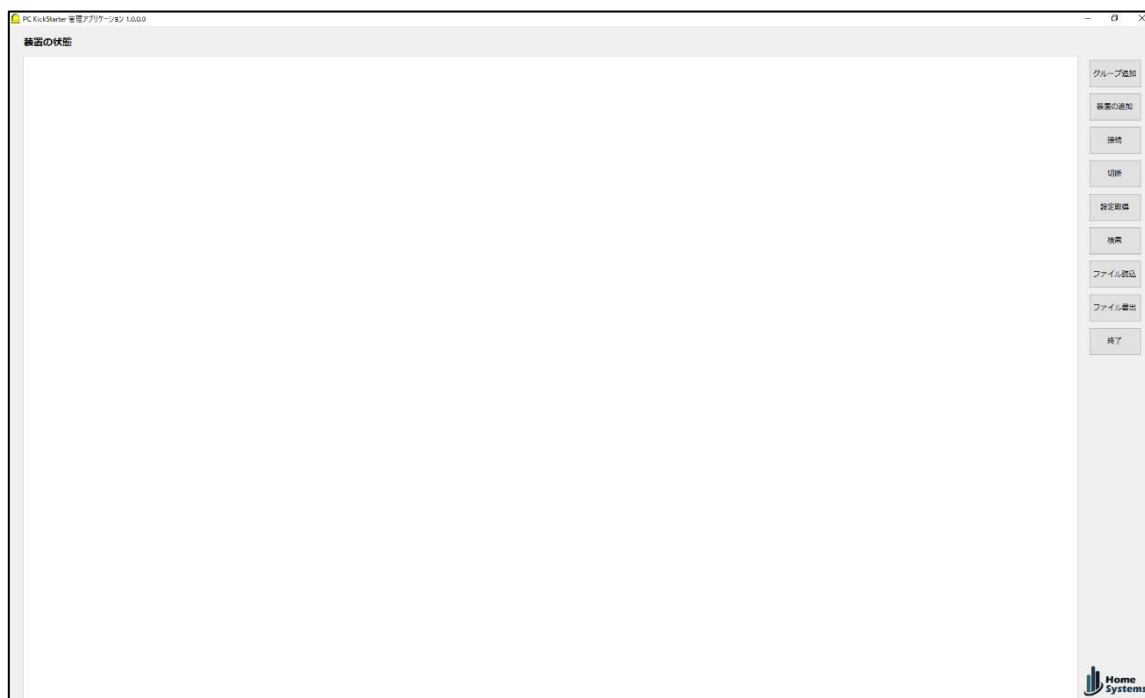


2. 管理ソフトウェアの起動

インストールが正常に行われると、デスクトップ上に下記のアイコンが出現します。
こちらをクリックして専用ソフトウェアを起動してください。



問題無ければ、下記のように専用ソフトウェアが起動します。

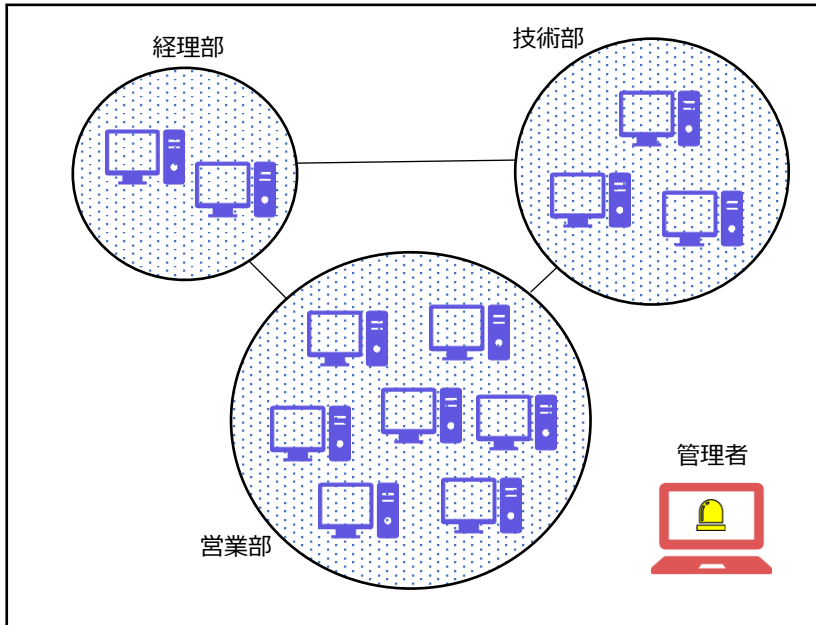


これで管理ソフトウェアの準備が整いましたので、続いて装置の設定などを行います。

3. 予備知識—グループの考え方

本製品は、1つの管理ソフトウェアで本装置が接続された複数台のパソコンを同時に管理できます。具体的には複数台のパソコンを1つのグループとしてグループ毎に管理を行います。

グループの概念について、とある企業を例として図示してみます。



この企業には、経理部・技術部・営業部があります。ここでは1人の管理者が専用ソフトウェアを使って全てのPCを管理したい場合を想定します。

この例では、「経理部」「技術部」「営業部」が各グループとなります。

最初にグループを作成し、作成したグループ毎に本装置を登録していく流れで準備を進めます。

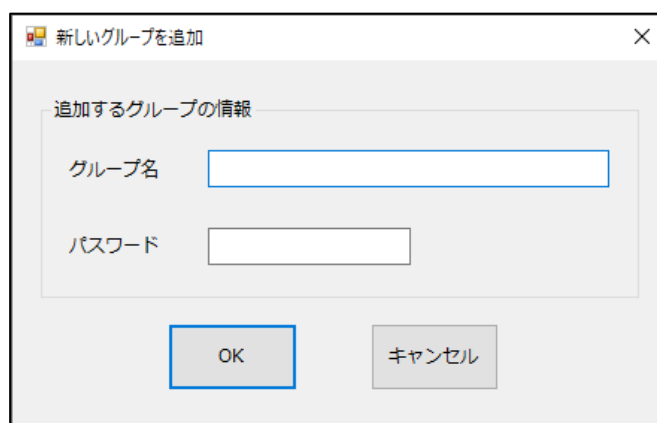
※本装置はデスクトップPCにのみ設置可能ですが、管理ソフトウェアは本装置が設置されていないパソコンからも利用可能です。

4. グループの作成

グループの作成は、管理ソフトウェアの画面右側にある「グループ追加」のボタンをクリックします。



クリックすると、下記のウィンドウが表示されグループ名とパスワードの入力を促しますので、必要なグループを順次追加します。ここで入力するパスワードはこのグループ共通のパスワードとなります。



例の企業の場合、経理部・技術部・営業部の3つのグループを追加します。1つグループを追加する毎にページタブが追加されます。(同一グループ名の追加はできません)

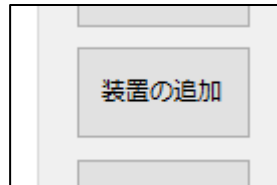


(「経理部」「技術部」「営業部」3つのグループが追加された様子)

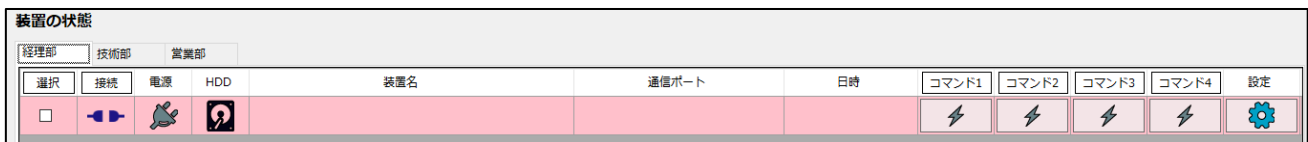
グループの追加が終わりましたら、続けて本装置の登録および初期設定を行います。

5. 装置の追加

装置を追加は、追加したいグループのタブが選択された状態で、画面右側の[装置の追加]ボタンをクリックして「空の装置」を追加するところから始めます。



空の装置が追加されると、下記のように背景がピンク色の行が追加されます。
(1行が、装置1台に該当します。)



背景のピンク色は、装置の設定が未完了であることを示します。
この状態では、まだ設定は完了していませんので[設定]ボタンをクリックします。

設定ボタンをクリックすると、「装置の設定」窓が表示されます。



6. 装置の設定

「装置の設定」は1つの本装置について全ての設定を行うことができる窓で、機能に応じて下記のようなタブがあります。

ネットワーク設定	有線 LAN, WiFi, WAN(主にインターネット)への接続についての設定を行います。
動作パターン	電源ボタン、リセットボタンを押す動作を本装置が行う場合の押す時間の長さなどの条件を設定します。最大 20 件の設定が可能です。
タイマー	指定した日時に、動作パターンで設定した動作を行わせるための設定です。最大 20 件の設定が可能です。
その他の設定	装置の一覧に表示させる装置名と、装置の一覧にある 4 つのコマンドボタンに動作パターンで設定した動作を割り当てる設定です。
装置の操作	設定の読み書きなど、本装置と直接通信を行うことができます。

装置の設定についての技術的な解説は、別頁にて行っています。

6-1. WiFi を DHCP で試してみる。

ここでは例として、WiFi(DHCP)を使って LAN に接続してみます。

DHCP は細かい設定を WiFi ルータが自動で行ってくれる機能で、大半の WiFi 接続ではこの DHCP を使うことが多いようです。



「ネットワーク設定」タブは、初期状態では左のような表示になっています。

イーサネット(有線 LAN)の動作モードは「無効」です。同様に WiFi についても「無効」となっています。

ここでの「無効」とは機能が OFF 状態であることを意味しています。

WiFi を DHCP で動作させるため、WiFi の動作モードを「無効」→「子機(DHCP)」に変更します。



WiFi の動作モードを「子機(DHCP)」に変更すると、左のように「SSID」と「アクセスキー」の入力欄が有効となり、同時に背景がピンク色に変わります。

本ソフトでは背景がピンク色の場合、設定が未完了であることを示します。

SSID とアクセスキーの入力が必要であると分かりますので、WiFi ルータの裏側等に記載されている SSID とアクセスキーを入力します。(2.4GHz 帯のみ対応。)

次に、必要であれば ポート番号(UDP)を 10000~50000 の範囲内で好きな番号を入力します。この番号は本装置の検索を行う際に入力する必要がありますので、複数台の装置をご利用の場合は、統一しておいた方が使いやすいでしょう。

この例では、初期値の 10000 のままにしておきます。

また、インターネットなど LAN の外側からも本装置と通信を行う場合は「WAN」欄に本装置に割り当てたグローバル IP とポート番号(UDP)を入力します。

(通常、この割当は別途ルータに必要な設定を行う必要があります。)

今回は LAN 内だけの利用とするので未入力のままとします。

また、LAN からインターネットにアクセス出来る場合、本装置が現在日時を取得するための NTP に関する情報を「タイムサービス」欄に入力します。

インターネットにアクセスできる WiFi であれば、このまま特に変更しなくても良いでしょう。インターネットにアクセスできない LAN の場合は未入力の状態にします。

これで「ネットワーク設定」はおわりです。

続いて「動作パターン」タブを選択して、動作パターンを設定します。

6-2. 動作パターンの設定

「動作パターン」タブは、電源ボタンやリセットボタンをどのように押すのかを設定するタブです。

本装置は、本来ユーザが直接押している電源ボタンとリセットボタンを、本装置がかわりに押します。 押す長さ(秒数)はユーザが普段操作している秒数をそのまま入力します。

このタブでの設定には、次のようなものがあります。



①動作パターン番号を選択

本装置は最大 20 件の動作パターンを作成しておくことができます。

②動作パターンを設定

- ・「動作パターン」
動作の種類を選択します。
- ・「ボタン押下の時間、またはタイムアウト時間」
単純動作の場合はその秒数、条件付き動作の場合は、諦めるまでの秒数を指定します。
- ・「ユニークな名前」
作成した動作パターンにユーザに分かりやすい名称を付けます。
この名づけは必須です。 他の設定に利用しますので、分かりやすい名前を付けてください。

次のページに、設定例を示します。

今回の例では、下記の設定を行います。

動作パターン番号	ユニークな名前	動作パターン	秒数
1	電源 On	電源ライトが消灯していたら電源ボタンを押下	1.0 秒
2	電源 Off	電源ライトが点灯していたら電源ボタンを押下	1.0 秒
3	リセット	リセットボタン押下(指定秒数)	1.0 秒
4	強制電源 Off	電源ライトが消灯するまで電源ボタンを押下	5.0 秒

動作パターン番号 1

動作パターン番号 2

動作パターン番号 3

動作パターン番号 4

一般的なパソコンの場合、秒数は上記の設定で問題なく動作すると思いますが、うまく動作しない場合は、ご自分で「何秒押ししているかな？」と考えながら調整してみてください。

6-3. タイマー

「タイマー」タブでは、指定条件の日時に「動作パターン」タブで作成した動作パターンを実行させる場合の設定を行います。



- ①タイマー番号を選択
タイマーは最大 20 件作成できます。
- ②タイマーの種類を指定
タイマーの種類を選択します。
- ③動作パターンを指定
「動作パターン」タブで作成した動作パターンを「ユニークな名称」で選択します。
- ④日時と週を指定
タイマーを起動する日時を指定します。

ここでは、毎週月曜日～金曜日の朝 7 時に電源 On、夜 8 時に電源 Off を設定してみます。毎週を選択した場合、カレンダーの週のみが使用されます。

タイマー番号 1

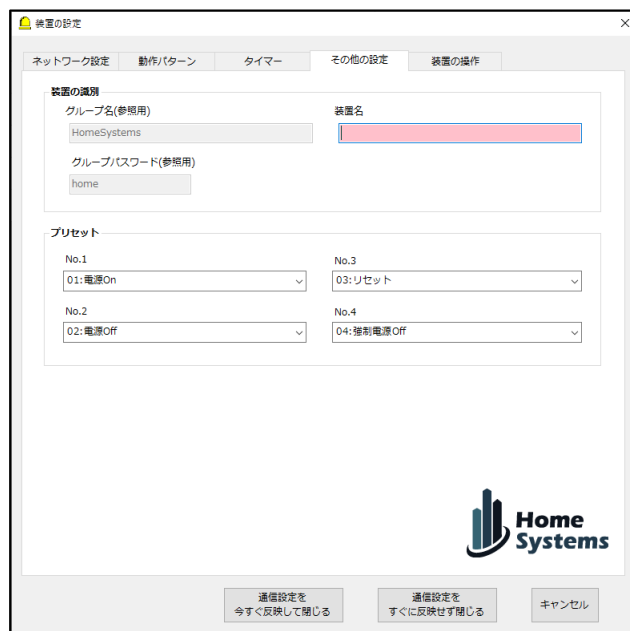


タイマー番号 2



6-4. その他の設定

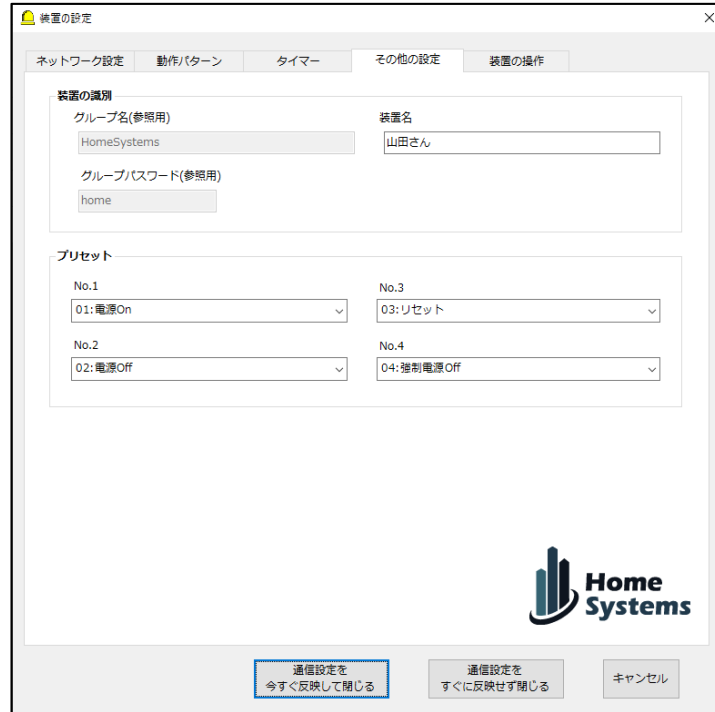
「その他の設定」タブでは、主にメイン画面での表示・操作についての設定を行います。



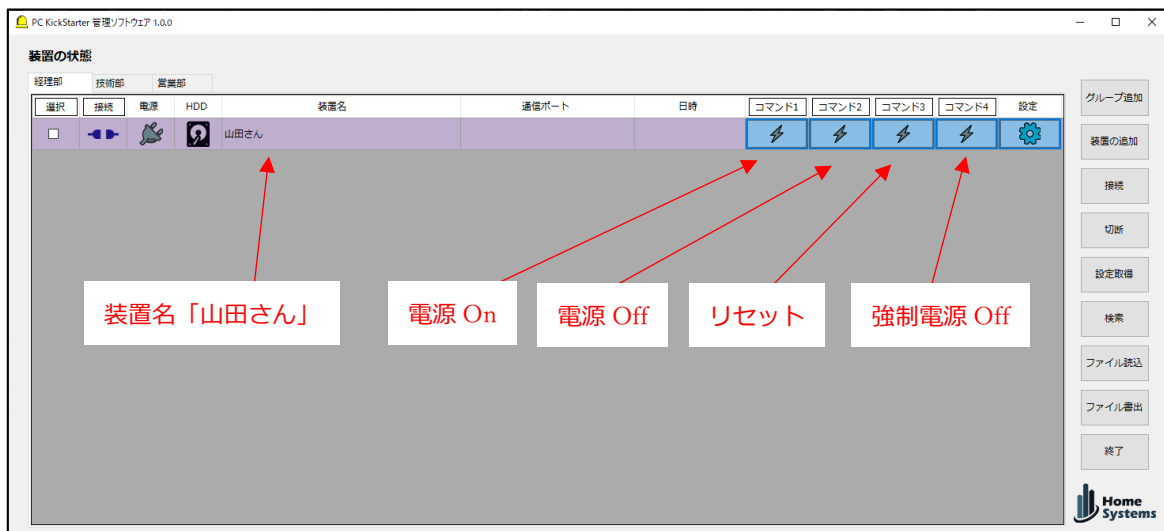
- グループ名(参照用)
属するグループの名前が参照用に表示されます。(編集不可)
- グループパスワード (参照用)
属するグループのパスワードが参照用に表示されます (編集不可)
- 装置名
本装置を設置したパソコンを識別するために任意の名前を入力します。
- プリセット
管理ソフトウェアを起動した際に表示される「装置の状態」のコマンドを押下した際に実行する動作パターンを割当てます。



ここでは、山田さんのパソコンに「山田さん」の装置名をつけて、コマンド1に「電源 On」、コマンド2に「電源 Off」、コマンド3に「リセット」、コマンド4に「強制電源 Off」を割当てます。



割当の結果、メイン画面は下記のようにになります。

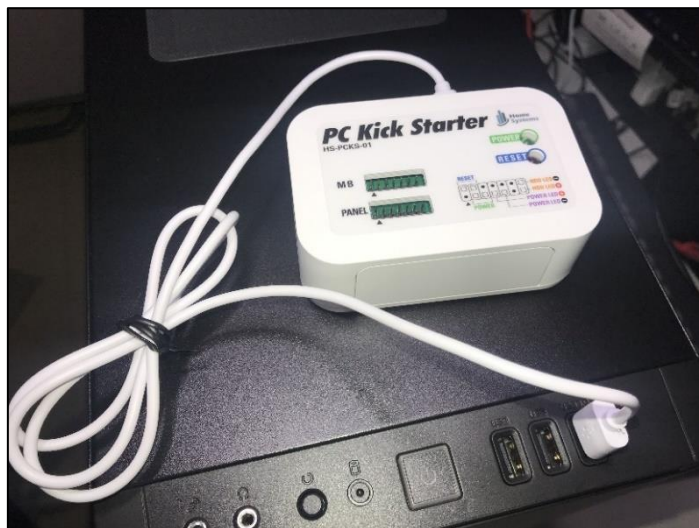


設定項目の入力・選択は以上になります。

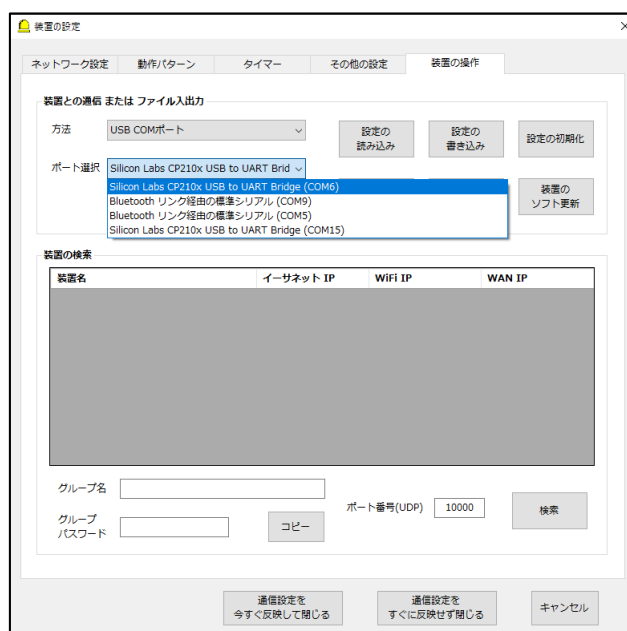
6 - 5. 装置の操作

ここまで入力・選択した設定内容を本装置に書き込みます。

「5. USB ケーブルのパソコンへの取り付け」でも説明しました通り、下記のように本装置を管理ソフトウェアを利用しているパソコンの USB ポートに接続してください。



接続しましたら、少し遅れてパソコンから USB 認識音が鳴りますので、この「装置の設定」タブから本装置に設定を書き込むための、USB COM ポートを選択します。この際、装置が認識されない場合デバイスドライバのインストールが必要です。（御述します）



方法で「USB COM ポート」を選択し、ポート選択で本装置の USB COM ポートを選択します。名称は「Silicon Labs CP210x USB to UART Bridge (COMx)」です。

6-5-1. デバイスドライバのインストール

装置をパソコンの USB ポートに接続しても正常に認識しない場合、デバイスドライバのインストールが必要です。

デバイスドライバは、SILICON LABS の下記サイトにあります。

VCP ドライバのダウンロードとインストール

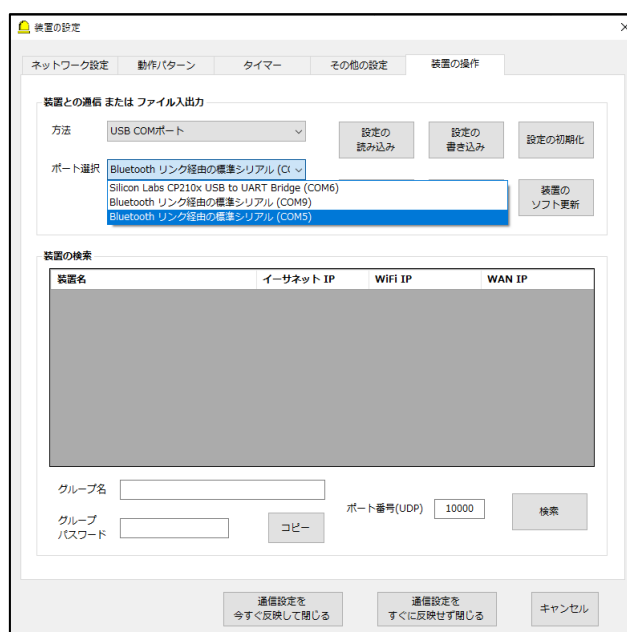
<https://jp.silabs.com/developers/usb-to-uart-bridge-vcp-drivers>

このサイトの「CP210x Universal Windows Driver」をダウンロードしてインストールしてください。尚、ドライバのインストールを行う際は、パソコンと本装置を接続している USB ケーブルは取り外しておいた方が安全です。

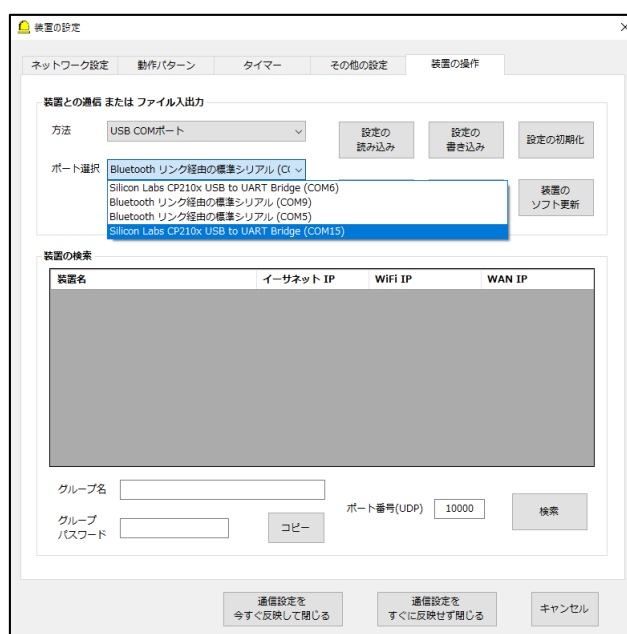
2021/6/16 現在の最新バージョンは v10.1.10 です。

本ドライバは、弊社サポートサイトにも置かせて頂きますので、ご利用ください。

もし複数「Silicon Labs CP210x USB to UART Bridge(COMx)」が表示されている場合は、どれが対象となる本装置なのか判別が難しいので、一旦パソコンから USB ケーブルを取外し「更新」ボタンを押してください。



この例では COM15 が消えたのが確認できました。つまり COM15 が本装置です。再度パソコンに USB ケーブルを接続して「更新」ボタンを押してください。

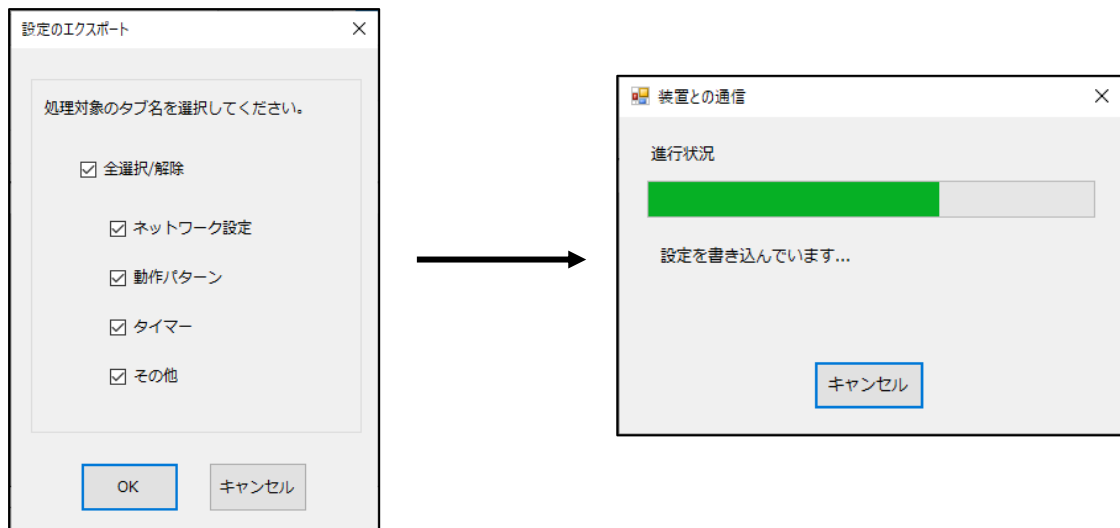


ポート選択タブから「Silicon Labs CP210x USB to UART Bridge(COM15)」を選択します。

方法とポート選択が完了したら「設定の書き込み」ボタンをクリックしてください。



書き込むタブの種類を選択するため「設定のエクスポート」窓が表示されますので、全ての項目がチェックされていることを確認して OK ボタンをクリックしてください。



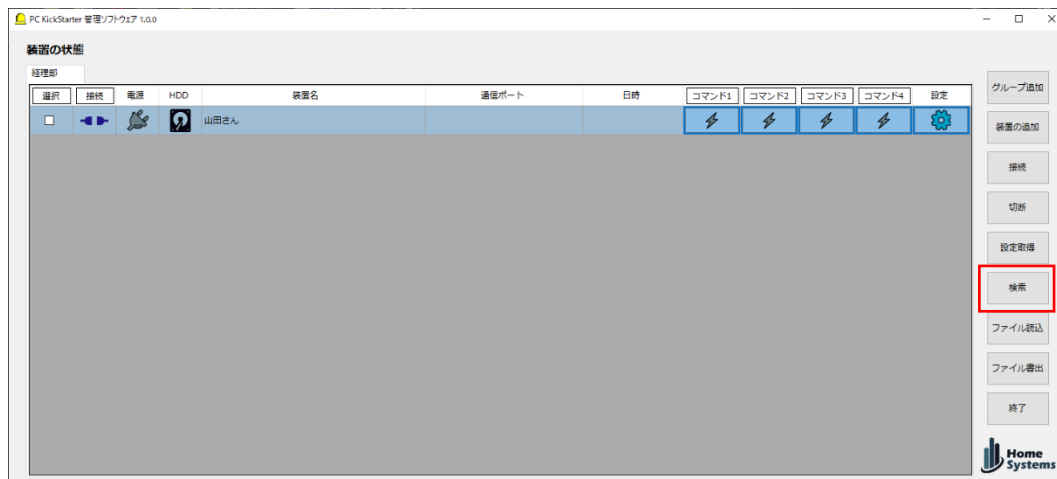
「成功しました。」と表示されれば、無事設定の書き込みは完了しています。パソコンから USB ケーブルを取り外し、付属の AC アダプタに接続してください。

最後に「通信設定を今すぐ反映して閉じる」をクリックします。とりあえず、ここまでの設定で動作を確認してみましょう。

通信設定を
今すぐ反映して閉じる

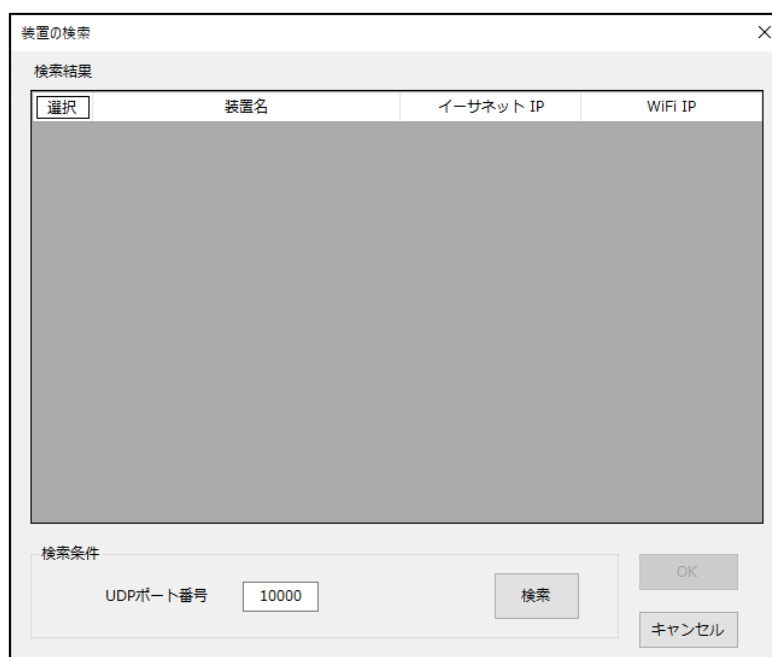
6-6. 動作の確認

「装置の設定」窓が閉じられると、メイン画面が下記のような表示になります。



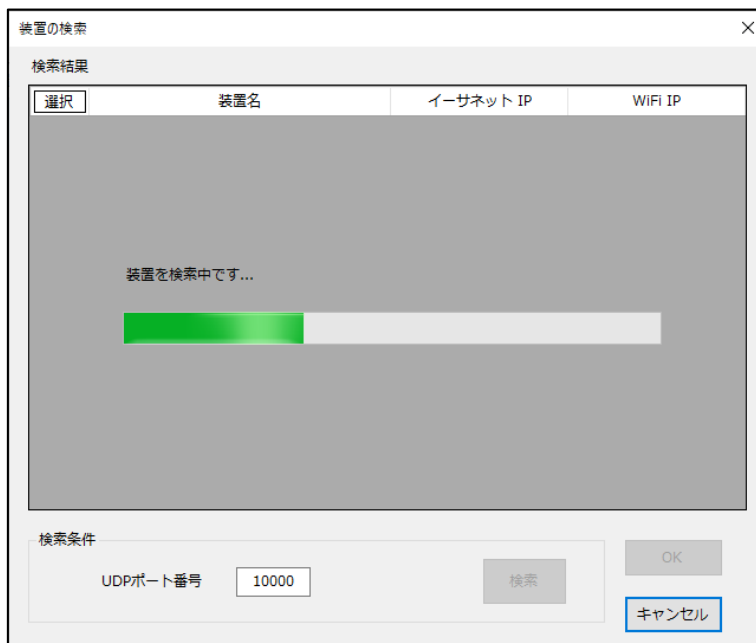
ここでは背景とカーソルが重なっているためダークブルーの背景になっていますが、カーソルが重なっていない場合は背景がグレーで表示された状態になります。背景色がこの色の場合、設定は正常であるものの、本装置と管理ソフトウェア間は未接続の状態であることを示しています。

今回は WiFi の DHCP を使った設定を行っているため、この時点で管理ソフトウェアは WiFi 上のどこに本装置があるのかわかりません。(WiFi ルータが自動で決めます) これを知るために「検索」ボタンをクリックして「装置の検索」窓を表示します。

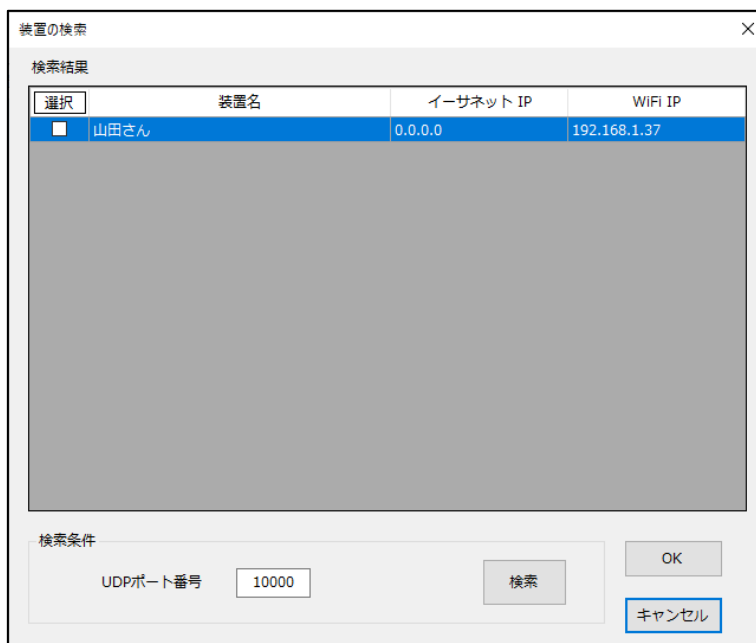


「6-1. WiFiをDHCPで使ってみる」で入力したポート番号(UDP)を、UDPポート番号に入力します。この例では初期値を用いたので、このままにしておきます。

「検索」ボタンをクリックすると装置が検索されます。



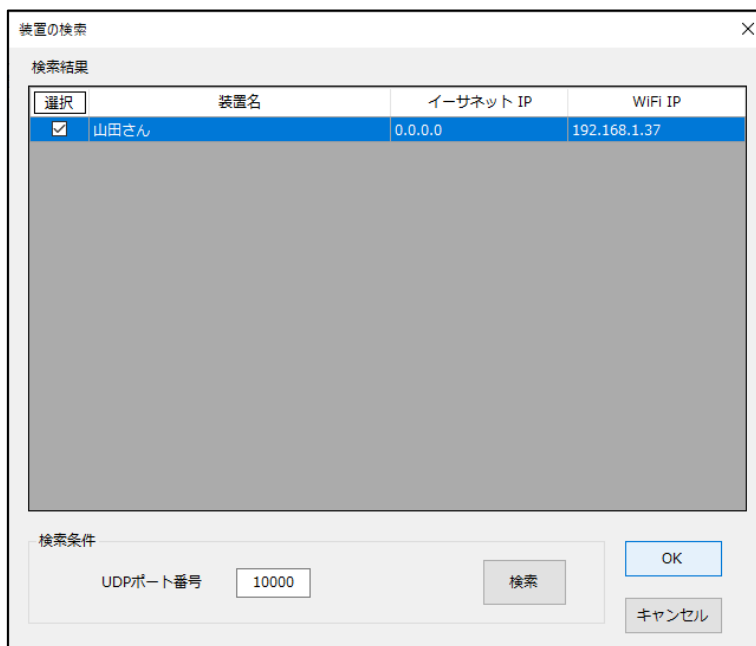
設定が正常であれば、下記のように「山田さん」の装置が見つかります。



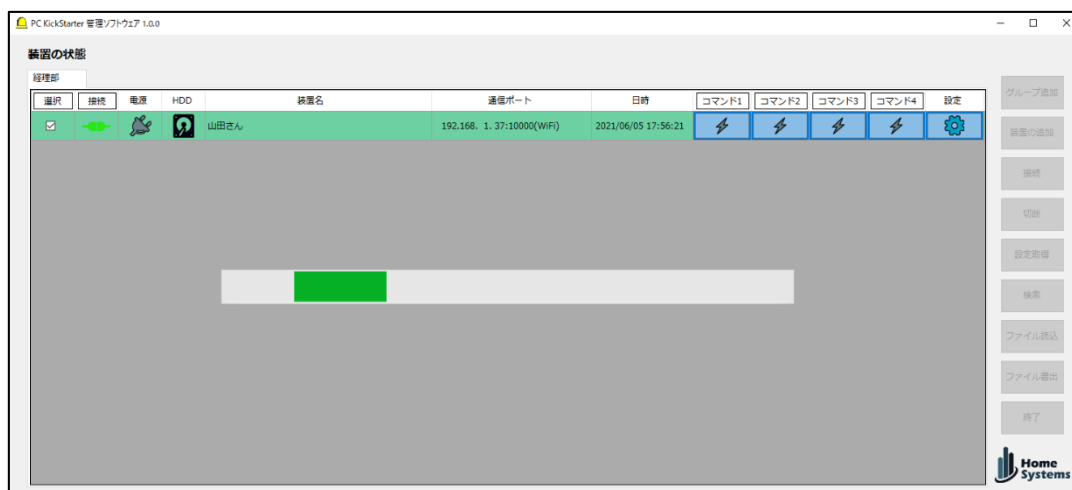
※この検索機能では、グループ名・グループパスワード・UDPポート番号が全て一致した装置のみ検索でき、条件に該当しない装置は表示されません。グループ名・グループパスワードはグループ追加時に入力したものが利用されますので、ここでの入力はありません。

次に、見つかった「山田さん」の装置をメイン画面に割り当てます。

選択欄のチェックを入れて「OK」ボタンをクリックしてください。



※尚ヘッダーの[選択]をクリックすると、複数のチェックを同時に On/Off できます。



「OK」をクリックすると、「山田さん」の装置と自動的に通信を開始します。

背景色がライトグリーンの際は、本装置と管理ソフトウェア間で正常に通信が行われていることを示しています。

この状態になれば設定作業は成功です。

この時点でタイマーも起動しており、コマンド 1～4 のボタンも利用可能となっています。

6-7. 設定の保存

最後に設定をファイルに保存しておきましょう。

メイン画面の「ファイル書出」ボタンをクリックして、ファイル名を入力して保存してください。



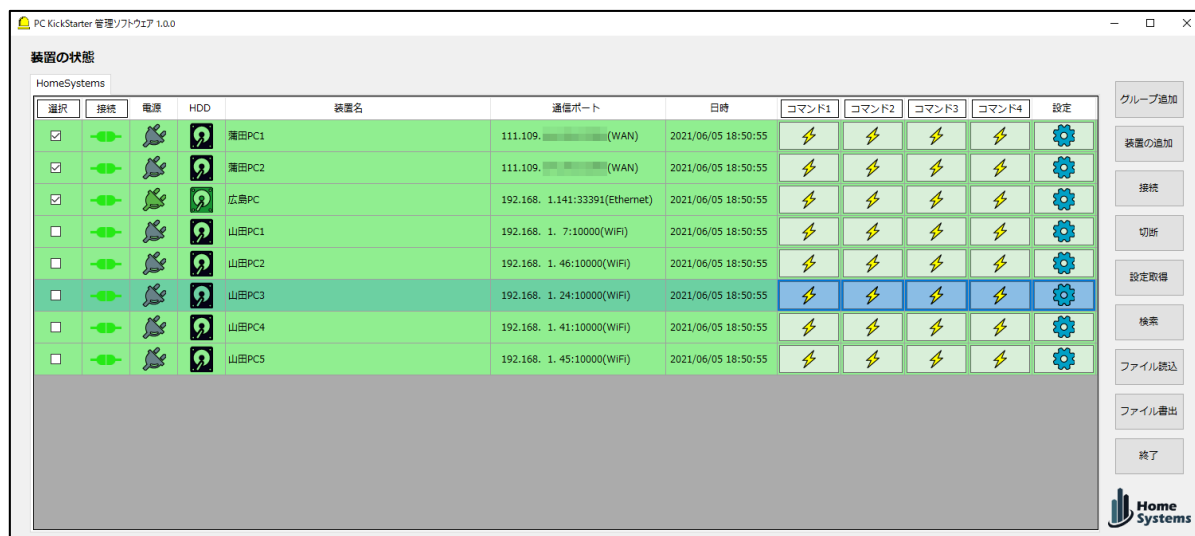
次回、管理ソフトウェアを起動する際は、「ファイル読込」ボタンをクリックして、保存したファイルを読み込んだ後、「検索」ボタンをクリックして再度検索を行います。

※DHCP を利用した接続の場合、管理ソフトウェア起動時に「検索」を毎回行う必要があります。固定 IP を使った接続の場合「検索」は必要ありません。

7. 運用方法

本装置と管理ソフトウェア間の通信が正常に行われている場合、メイン画面に各装置が1行ごとに背景色ライトグリーンで表示されます。未接続の装置は、背景色がグレーになります。

下記の画像は、管理ソフトウェアが8台の装置を認識しており、2台はWAN(インターネット経由 固定 IP)、1台はイーサネット(有線 LAN 固定 IP)、残り5台がWiFi(DHCP)経由で、各々接続されている様子を示しています。

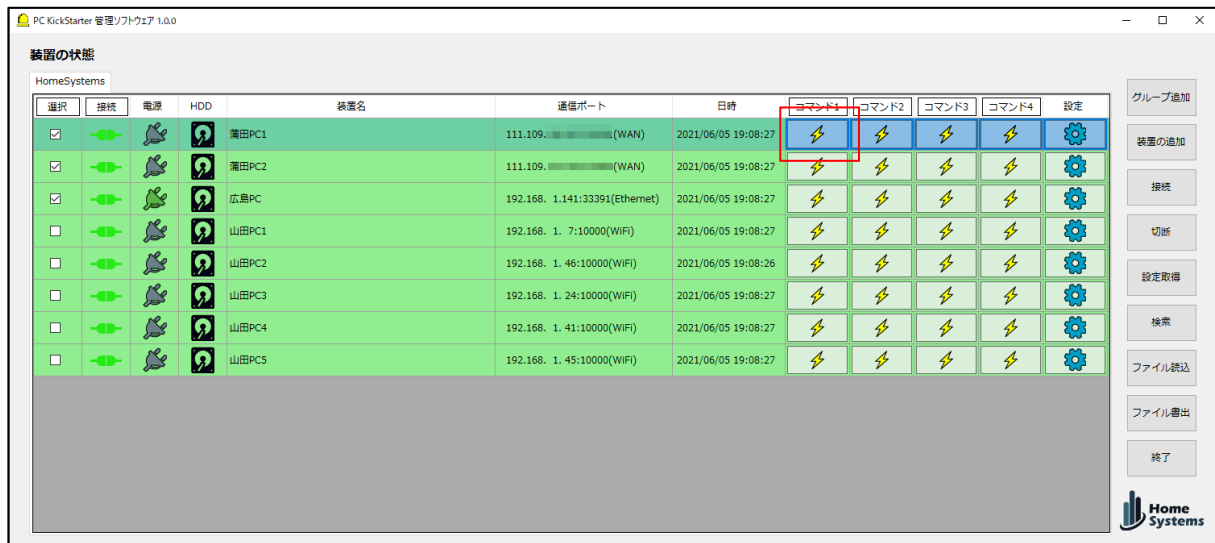


この一覧の項目内容は下記の通りです。

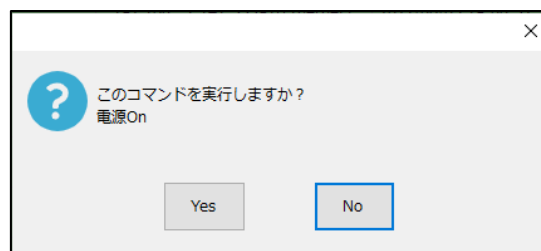
選択	右ボタン「接続」「切断」「設定取得」の対象となる装置を選択するためのチェックボックスです。
接続	接続状態を示します。接続時グリーン色に変わります。
電源	電源ランプの点灯有無です。 点灯時はグリーン、消灯時はグレーのアイコンが表示されます。
HDD	HDD ランプの点灯有無です。 点灯時はグリーン、消灯時はグレーのアイコンが表示されます。
装置名	設定時に入力した装置名です。
通信ポート	現在利用中の IP,ポート番号, 通信方法です。
日時	装置内のカレンダー時計の日時です。
コマンド 1 ~ 4	設定時に選択した動作パターンが割り当てられたボタンです。
設定	「装置の設定」窓を呼び出すボタンです。

この状態では、広島 PC の電源だけが On になっています。

設定時に電源 On がコマンド 1 に割り当てられている場合に蒲田 PC1 を電源 On するには、コマンド 1 のイナズマボタンをクリックします。



コマンド1のイナズマボタンをクリックすると、下記のような確認窓が表示されます。



デフォルトボタンは「No」にしています。

本装置は電源ボタン・リセットボタンのユーザ操作を代替する性質上、連打によるパソコンへのダメージを考慮して、連打できないように「No」をデフォルトボタンにしています。

「Yes」をクリックし、蒲田 PC の電源が On されるとすぐ電源アイコンがグリーンに変化し、HDD アイコンが点灯したり消灯します。このアイコンは、対象パソコンの電源ランプの状態がそのまま表示されますので、電源アイコンがグリーンかどうかで対象パソコンの電源 On/Off 状態をリアルタイムに確認できます。



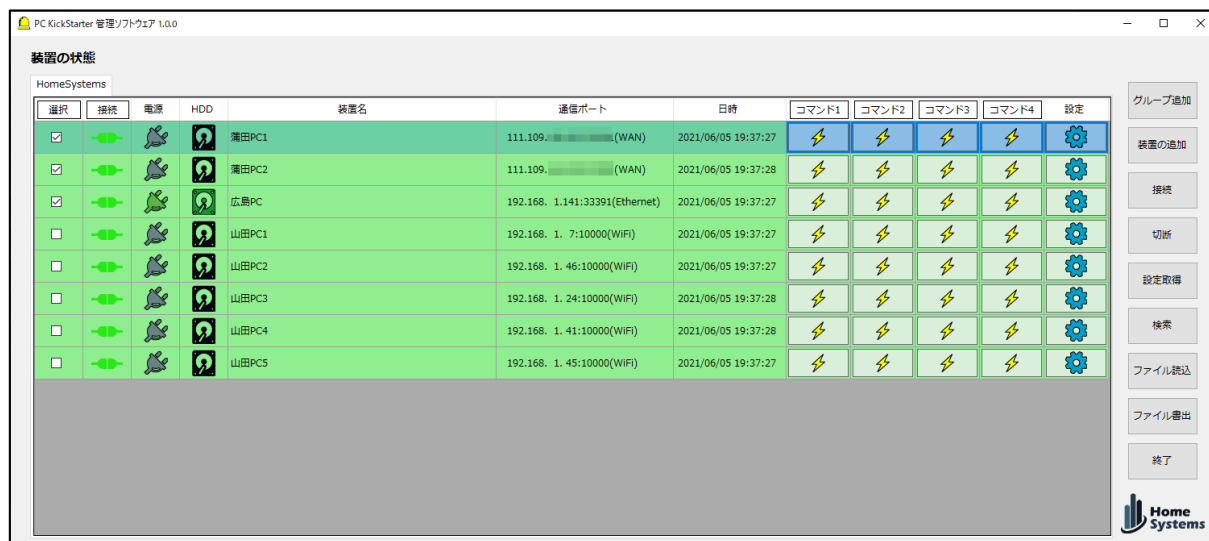
コマンド 1 をクリックして電源アイコンがグリーンになった直後は、たぶん OS の起動中です。(実際にパソコンの電源ボタンを押した時と同じように)しばらく待ってから、リモートソフトなどでのアクセスを始めてください。

次に、同じ蒲田 PC1 を電源 Off してみます。

設定時に電源 Off がコマンド 2 に割り当てられている場合に蒲田 PC1 を電源 Off したいときは、コマンド 2 のイナズマボタンをクリックします。



電源 Off の直後は OS がシャットダウン中なので、暫く電源アイコンはグリーンのまま、HDD アイコンが点滅などした後、電源アイコンがグレーに変わります。



本装置は、電源ランプと HDD ランプの On/Off 状態だけを見ていますので、実際に OS がどのように起動しているのかには関知しません。

管理ソフトウェアの機能（詳細説明）

ここでは、PC Kick Starter 管理ソフトウェアについて詳細な説明を行っています。

1. メイン画面

1 - 1. 装置の一覧表示

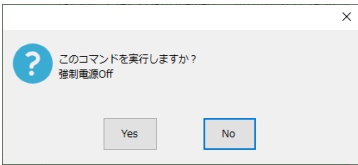
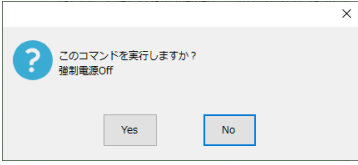
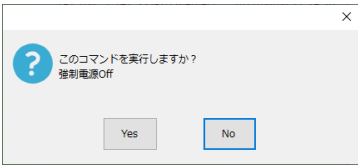
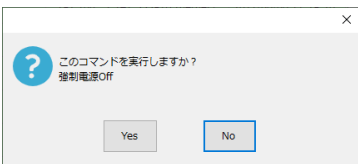
選択	接続	電源	HDD	装置名	通信ポート	日時	コマンド1	コマンド2	コマンド3	コマンド4	設定
<input checked="" type="checkbox"/>				薄田PC1	111.109. (WAN)	2021/06/06 16:49:22					
<input checked="" type="checkbox"/>				薄田PC2	111.109. (WAN)	2021/06/06 16:49:21					
<input checked="" type="checkbox"/>				広島PC	192.168. 1.141:33391(Ethernet)	2021/06/06 16:49:22					
<input checked="" type="checkbox"/>				山田PC1	192.168. 1. 7:10000(WIFI)	2021/06/06 16:49:22					
<input checked="" type="checkbox"/>				山田PC2	192.168. 1. 46:10000(WIFI)	2021/06/06 16:49:22					
<input checked="" type="checkbox"/>				山田PC3	192.168. 1. 24:10000(WIFI)	2021/06/06 16:49:22					
<input checked="" type="checkbox"/>				山田PC4	192.168. 1. 41:10000(WIFI)	2021/06/06 16:49:22					
<input checked="" type="checkbox"/>				山田PC5	192.168. 1. 45:10000(WIFI)	2021/06/06 16:49:22					
<input type="checkbox"/>											
<input type="checkbox"/>				大阪PC1							

装置の一覧は、1行に1台の本装置が割り当てられています。

列の内容は下記の通りです。

選択	接続・切断・設定取得(後述)の対象となる装置を選択するためのチェックボックスです。 ☑は選択していることを意味します。
接続	装置との接続状態を表示します。 接続中 未接続
電源	装置に接続されているパソコンの電源ランプの点灯状態を表示します。 点灯 (電源 On) 消灯 (電源 Off)
HDD	装置に接続されているパソコンの HDD アクセスランプの点灯状態を表示します。 点灯 (HDDにアクセス中) 消灯 (HDDにアクセスしていない)

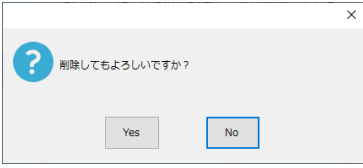
HDD (続き)	ご利用のパソコンによっては、HDD アクセスランプが搭載されていないものがあります。 この場合、本アイコンは常時消灯となります。						
装置名	装置を識別するため、設定時に入力した装置名を表示します。						
通信ポート	<p>現時点で装置と管理ソフトウェアが通信に利用している通信ポートを表示します。 表示形式は、 「IP アドレス:UDP ポート番号(インタフェース)」です。 インタフェースは、</p> <table border="1" data-bbox="719 674 1315 808"> <tr> <td>Ethernet</td> <td>有線 LAN 経由</td> </tr> <tr> <td>WiFi</td> <td>WiFi 経由</td> </tr> <tr> <td>WAN</td> <td>WAN(インターネット経由)</td> </tr> </table> <p>の何れかです。</p> <p>通信ポートは、Ethernet → WiFi → WAN の順に接続可能なものを自動的に選択します。 (ラウンドロビン方式)</p> <p>また、「装置の設定」で WAN 優先を指定できます。この場合、WAN → Ethernet → WiFi の順に接続可能なものを自動的に選択します。</p> <p>1 インタフェースあたりのタイムアウト時間は 3 秒です。また設定時「無効」となっているインタフェースはこのローテーションから除外されます。</p>	Ethernet	有線 LAN 経由	WiFi	WiFi 経由	WAN	WAN(インターネット経由)
Ethernet	有線 LAN 経由						
WiFi	WiFi 経由						
WAN	WAN(インターネット経由)						
日時	<p>装置が持つカレンダー時刻を表示します。 通信のオーバーヘッドなどの理由で複数台の日時が秒単位で一致しない場合もありますので、あくまで目安となります。</p> <p>装置がタイムサービスまたは「装置の選択」からの手動操作のいずれかの方法で日時を取得していれば現在日時が表示されます。取得されていない場合は「取得中」と表示されたままになります。 この場合、装置のタイマー機能は無効となります。</p> <p>お使いの環境でタイムサービスが利用できない場合、「装置の設定」から手動操作で日時設定が可能です。尚、装置はカレンダー時刻のバッテリーバックアップ機能を持っておりませんので、電源断などした場合は「装置の設定」から現在時刻を再設定して頂く必要があります。</p>						

<p>コマンド1</p>	<p>クリックすると、設定で指定したプリセット No.1 を1回実行します。</p>  <p>このコマンドを実行しますか? 強制電源OFF</p> <p>Yes No</p>
<p>コマンド2</p>	<p>クリックすると、設定で指定したプリセット No.2 を1回実行します。</p>  <p>このコマンドを実行しますか? 強制電源OFF</p> <p>Yes No</p>
<p>コマンド3</p>	<p>クリックすると、設定で指定したプリセット No.3 を1回実行します。</p>  <p>このコマンドを実行しますか? 強制電源OFF</p> <p>Yes No</p>
<p>コマンド4</p>	<p>クリックすると、設定で指定したプリセット No.4 を1回実行します。</p>  <p>このコマンドを実行しますか? 強制電源OFF</p> <p>Yes No</p>
<p>設定</p>	<p>この装置についての設定を行う「装置の設定」窓を表示します。</p>

列の背景色の意味は下記の通りです。

設定エラー	「装置の設定」で行った設定が不完全です。
未接続	装置と管理ソフトウェア間は未接続です。
接続中	装置と管理ソフトウェア間は接続中です。
通信エラー	装置と管理ソフトウェア間で通信エラーが発生しています。 本製品は UDP にて通信を行っているため、稀に通信エラーが発生することがありますが、動作に影響ありません。

装置の一覧表には下記の編集機能があります。

行のドラッグ & ドロップ	マウス操作による ドラッグ&ドロップ操作が可能です。 行の表示順序を変更することができます。
行(装置)の削除	Del キーを押下することで行を削除できます。 確認窓が表示されます。 

グループ名のタブを右クリックすることで、下記機能を持つメニューが表示されます。

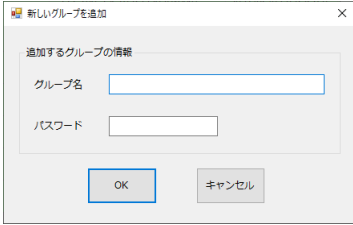
グループ名の変更	グループ名を変更します。 装置との通信では、装置側と管理ソフトウェア側のグループ名が一致している必要があります。 (不一致の場合、装置は応答しません) 装置には「装置の設定」から書き込み操作を行わない限り、ここで入力した新しいグループ名は適用されません。既に装置が登録されているグループ名の変更はこれを加味して行ってください。
グループの削除	グループを削除します。 装置側の設定には影響しません。



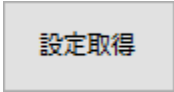
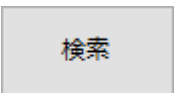

グループパスワードの変更	<p>グループパスワードを変更します。</p> <p>装置との通信では、装置側と管理ソフトウェア側のグループパスワードが一致している必要があります。（不一致の場合、装置は応答しません）</p> <p>装置には「装置の設定」から書き込み操作を行わない限り、ここで入力した新しいグループパスワードは適用されません。既に装置が登録されているグループのグループパスワードの変更は、これを加味して行ってください。</p>
--------------	---

1 - 2. 右サイドボタン



右サイドには下記の機能を持ったボタンがあります。

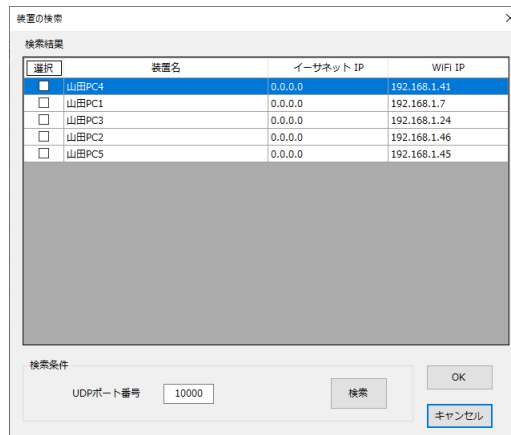
<p>グループ追加</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">グループ追加</div>	<p>新しいグループを作成します。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>クリックすると、グループ名とパスワードを入力する窓が表示されます。既にあるグループと同一名のグループは作成できません。</p> <p>グループが作成されると「装置の一覧」に新しいグループのタブが作成されます。</p>
<p>装置の追加</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">装置の追加</div>	<p>上部タブで選択されているグループに「空の装置」を追加します。</p> <p>「空の装置」は、まだ設定が行われていないため装置の一覧では背景ピンク色で表示されます。</p>

<p>接続</p> 	<p>「装置の一覧」で選択中のグループ内の各装置について「選択」チェックボックスが☑されている装置との通信を開始します。</p> <p>接続状態は「装置の一覧」の背景色で告知する仕様であるため、エラーポップアップ窓などエラーを示す告知はありません。</p>
<p>切断</p> 	<p>「装置の一覧」で選択中のグループ内の各装置について「選択」チェックボックスが☑されている装置との通信を停止します。</p> <p>接続状態は「装置の一覧」の背景色で告知する仕様であるため、エラーポップアップ窓などエラーを示す告知はありません。</p>
<p>設定取得</p> 	<p>「装置の一覧」で選択中のグループ内の各装置について「選択」チェックボックスが☑されている装置の設定を装置から取得します。取得結果は「装置の設定」で表示・編集が可能です。</p> <p>後述する「検索」を用いて装置から設定が自動取得される場合を除いて、この設定取得を行わない場合、「装置の設定」の内容と実際に装置に設定されている内容が一致している保障はありません。</p> <p>従いまして「検索」を用いない場合、必ず本機能を用いて設定を取得する必要があります。</p>
<p>検索</p> 	<p>ブロードキャストパケットで装置を検索します。</p> <p>このボタンをクリックすると「装置の検索」窓が表示されます。</p>  <p>装置の設定で指定したUDPポート番号を入力して、[検索]ボタンをクリックすることで装置の検索が開始されます。</p>

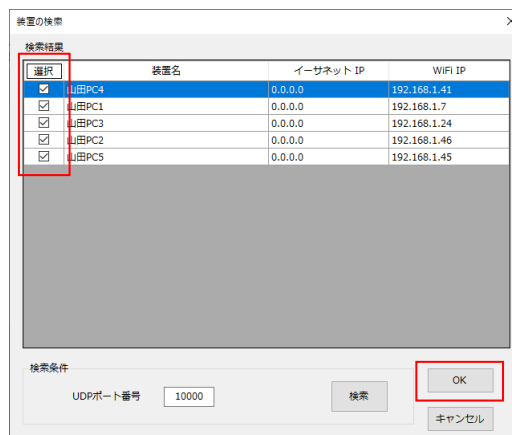
検索 (つづき)



[検索]ボタンをクリックすると、検索が行われ装置が見つかったと下記のような装置一覧が表示されます。



装置の一覧に反映したい装置の「選択」を☑して [OK]ボタンをクリックすると、装置の一覧に選択した装置が反映・追加されます。



装置の一覧に選択した装置が追加・反映(上書き)され、同時に装置から設定が取得されます。

IP アドレスが 0.0.0.0 である場合、そのインターフェースは無効で利用できないことを示しています。

本機能はブロードキャストパケットを利用して探索するため、WAN(インターネット等) を経由した検索は行えません。また、通常は LAN 内の 1 ホップ内にある装置のみ検索可能です。

<p>ファイル読込</p> <p>ファイル読込</p>	<p>「ファイル書出」で保存した PC Kick Starter 統合設定ファイル(拡張子.pckb)を読み込みます。</p> <p>装置の設定などを行った後、あらかじめ保存しておいたファイルを読み込むことで、管理を開始する手順を簡略化できます。</p> <p>固定 IP 利用時は、 ファイル読込 → 選択☑ → 接続</p> <p>DHCP 利用時は、 ファイル読込 → 検索</p> <p>固定 IP, DHCP 混在利用時は、 ファイル読込 → 検索 → 選択☑ → 接続</p> <p>の各操作で、管理を開始できます。</p>
<p>ファイル書出</p> <p>ファイル書出</p>	<p>現時点で管理ソフトウェアが保持している、全グループのグループ名、グループパスワード、また各グループにある装置の設定内容を PC Kick Starter 統合設定ファイル(拡張子.pckb)として保存します。</p> <p>この機能は、あくまで管理ソフトウェアが保持している設定内容を保存するだけですので、装置に設定されている設定内容と同一内容であることが保障されない点に注意してください。</p> <p>「装置の設定」窓での設定内容が装置に書き込みしない限り装置には反映されないのと同様、本機能を用いる直前で「設定取得」を用いて全ての装置の設定を取得しない限り、各装置の設定内容とファイルに保存される設定内容の一致は保障されません。</p>
<p>終了</p> <p>終了</p>	<p>管理ソフトウェアを終了します。</p> <p>終了確認などはなく、すぐに終わります。</p>

弊社アイコン



管理ソフトウェアのバージョンとコピーライトを表示します。



2. 装置の設定

「装置の設定」窓は、本装置に書き込んでユーザ希望の動作を行わせる設定を網羅しています。

入力必須な項目が入力されていない場合、その項目の背景色がピンク色になります。

2-1. ネットワーク設定

このタブは、本装置がネットワーク上で通信を行うために必要な設定全般を行います。

・イーサネット(LAN)

本装置の有線 LAN コネクタを介した通信に関する設定です。



設定項目は下記の通りです。

動作モード	<p>有線 LAN をどのように動作させるのかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無効 有線 LAN を使用しない。 ・有効(DHCP) 有線 LAN を D H C P で動作させる。 ・有効(固定 IP) 有線 LAN を固定 IP で動作させる。
I P	<p>有線 LAN を固定 IP で動作させる際に本装置の IP アドレスを指定する項目です。</p>

ポート番号(UDP)	有線 LAN で通信するためのポート番号を指定します。
サブネットマスク	有線 LAN を固定 IP で動作させる際にサブネットマスクを指定する項目です。
デフォルトゲートウェイ IP	有線 LAN を固定 IP で動作させる際にデフォルトゲートウェイを指定する項目です。
DNS サーバ IP	有線 LAN を固定 IP で動作させる際に DNS サーバの IP を指定する項目です。

・WiFi (LAN)

本装置の WiFi インタフェース(内臓 WiFi)を使った通信に関する設定です。



設定項目は下記の通りです。

動作モード	<p>内臓 WiFi をどのように動作させるのかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無効 内臓 WiFi を使用しない。 ・子機(DHCP) 内臓 WiFi をDHCPで動作させる。 ・子機(固定 IP) 内臓 WiFi を固定 IP で動作させる。
-------	---

SSID	内臓 WiFi が、WiFi ルータに接続するために必要な SSID です。 2.4Ghz 帯にのみ対応しています。
アクセスキー	内臓 WiFi が、WiFi ルータに接続するために必要なアクセスキー（パスワード）です。
IP	内臓 WiFi を固定 IP で動作させる際に本装置の IP アドレスを指定する項目です。
ポート番号(UDP)	内臓 WiFi で通信を行うために利用するポート番号を指定します。
サブネットマスク	内臓 WiFi を固定 IP で動作させる際にサブネットマスクを指定する項目です。
デフォルトゲートウェイ IP	内臓 WiFi を固定 IP で動作させる際にデフォルトゲートウェイを指定する項目です。
DNS サーバ IP	内臓 WiFi を固定 IP で動作させる際に DNS サーバの IP を指定する項目です。

・WAN

本装置に WAN(インターネット) 経由で接続ための情報を入力する項目です。



この項目は、本装置は内部利用しません。 管理アプリケーションが本装置から設定を読み出して、WAN 通信に利用するための設定項目です。

設定項目は下記の通りです。

グローバルIP	本装置をWAN（インターネット等）経由でアクセスする場合に利用するIPアドレスを設定します。
ポート番号(UDP)	本装置をWAN（インターネット等）経由でアクセスする場合に利用するポート番号(UDP)を設定します。 通常、このポート番号について、ご利用のルータにポート開放設定（静的IP マスカレード、静的NAPT など名称が使われています）を行い、UDP パケットが本装置に届くよう事前に設定しておく必要があります。
<input checked="" type="checkbox"/> 優先して通信	管理アプリケーションのWAN 通信優先度を指定します。 チェックすると、WAN 通信優先度が最も高くなります。 チェックなし 有線LAN → WiFi → WAN チェックあり WAN → 有線LAN → WiFi

・タイムサービス

本装置が NTP サーバから日時情報を取得するために利用する項目です。

The screenshot shows the '装置の設定' (Device Settings) window with the 'タイムサービス' (Time Service) section highlighted. The settings are as follows:

- タイムサービス**
 - NTP サーバ IP/URL: pool.ntp.org
 - NTP サーバ ポート番号: 123
 - 世界標準時からの時差: -9 時間

Other visible settings include:

- イーサネット (LAN)**: 動作モード: 無効, IP: , ポート番号(UDP): 10000, サブネットマスク: , デフォルトゲートウェイ IP: , DNSサーバ IP:
- WiFi (LAN)**: 動作モード: 無効, SSID: , アクセスキー: , ポート番号(UDP): 10000, サブネットマスク: , デフォルトゲートウェイ IP: , DNSサーバ IP:
- WAN**: グローバルIP: , ポート番号(UDP): 10000, 優先して通信

設定項目は下記の通りです。

NTP サーバ IP/URL	NTP サーバの IP または URL を指定します。 通常はデフォルト値のまま構いません。
NTP サーバ ポート番号	NTP サーバのポート番号を指定します。 通常はデフォルト値のまま構いません。
世界標準時からの 時差	本装置のタイマーで利用する時間について、世界標準時 (UTC/GMT)からの時差を指定します。 日本の場合、-9 時間となります。 一部の国で実施されている夏時間には対応していません。

2-2. 動作パターン

このタブでは、本装置の電源ボタン・リセットボタンをどのように動作させるのかを指示するための設定を行います。

・①動作パターン番号を選択

本装置では、装置の一覧のコマンドボタン、またタイマー設定などで利用する動作パターンを最大 20 件まで登録できますが、どのパターン番号として設定するのかをこのボタン群で選択します。



・ ②動作パターンを設定

①で選択した動作パターンの動作を指定します。



設定項目は下記の通りです。

動作パターン	<p>動作パターンの種類を指定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「未選択」 動作パターンは無効（何もしない） 2. 「電源ボタン押下(指定秒数)」 指定した秒数、電源ボタンを押したままにします。 3. 「リセットボタン押下(指定秒数)」 指定した秒数リセットボタンを押したままにします。 4. 「電源ライトが点灯するまで電源ボタン押下」 電源ライトが消灯していたら電源ライトが点灯するまで電源ボタンを押したままにします。指定秒数はタイムアウト秒数です。 5. 「電源ライトが消灯するまで電源ボタン押下」 電源ライトが点灯していたら電源ライトが消灯するまで電源ボタンを押したままにします。指定秒数はタイムアウト秒数です。 6. 「電源ライトが点灯していたら電源ボタン押下」 電源ライトが点灯したら、指定秒数だけ電源ボタンを押したままにします。
--------	--

動作パターン (つづき)	7. 「電源ライトが消灯していたら電源ボタン押下」 電源ライトが消灯していたら、指定秒数だけ 電源ボタンを押したままにします。 4・5と6・7は似ていますが、指定秒数がタイムアウト 秒数なのか押下秒数なのかに違いがあります。
ボタン押下の 時間、または タイムアウト時間	ボタン押下時間またはタイムアウト時間を指定します。 最小 0.4 秒～最大 30 秒まで 0.2 秒単位で指定できます。
ユニークな名前	この動作パターンに、ユーザ任意の名前を設定します。 他の設定タブで動作パターンの選択に利用されます。

2-3. タイマー

このタブでは、内臓タイマーの動作を設定します。

・①タイマー番号を選択

本装置では、同時に動作するタイマーを最大 20 件まで登録登録できますが、
どのパターン番号として設定するのかをこのボタン群で選択します。



・②タイマーの種類を選択

①で選択したタイマーの動作種別を指定します。



設定項目は下記の通りです。

オフ	このタイマーは休止状態です。
特定日	指定した年月日の指定時刻になったら、指定した動作パターンを実行します。
毎年	指定した月日の指定時刻になったら、指定した動作パターンを実行します。 ※カレンダーの「年」は利用されません。
毎月	指定した日の指定時刻になったら、指定した動作パターンを実行します。 ※カレンダーの「年月」は利用されません。
毎週	指定した曜日の指定時刻になったら、指定した動作パターンを実行します。 ※カレンダーの「曜日」のみ利用されます。
毎日	指定時刻になったら、指定した動作パターンを実行します。 ※カレンダーは利用されません。

・ ③動作パターンを指定

タイマー条件にあてはまった時に実行される動作パターンを「ユニークな名前」で選択・指定します。



・ ④日時と週を指定

タイマー条件となる年月日・週・時刻を指定します。



設定項目は下記の通りです。

日・週	タイマーの種類に応じて、年・月・日・週を指定します。 ドラッグ&ドロップ操作により、連続した最大7日間の指定が行えます。 例えば週であれば、月～木曜日という指定を1つのタイマーで行うことができます。
時刻	タイマー条件とする時刻を指定します。 時刻は分単位までの指定となり、秒単位の指定には対応していません。

・タイマーの優先順位について

タイマーの優先順位

- ・若い番号のタイマーが優先されます。
- ・それ以外の同じ起動条件を持つタイマーは無視されます。

コマンドボタン経由で行った動作パターンの実行中に、タイマーが起動条件を満たした場合。

- ・先に実行中の動作パターンが終了した時点で、まだ設定時刻と現在時刻が同じであった場合に限り、当該タイマーは起動されます。
- ・この場合も「タイマーの優先順位について」に記載した条件が適用されます。

・タイマーの精度について

最短で00秒に起動されますが、諸条件に応じて数秒～数十秒遅れる場合もあります。

2-4. その他の設定

このタブでは、本装置についての諸設定を行います。

・装置の識別

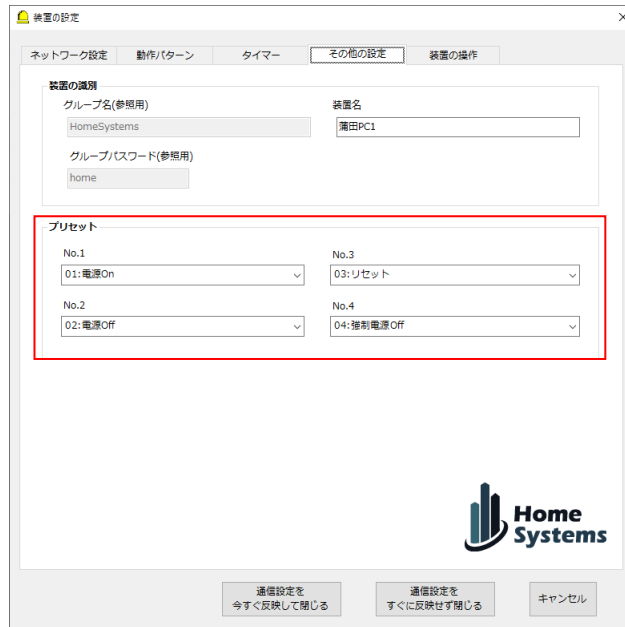
本装置と管理ソフトウェアが通信を行う際の条件を設定します。

設定項目は下記の通りです。

グループ名 (参照用)	本装置が属するグループ名が表示されます。 グループ名は、管理ソフトウェアで「グループ追加」で設定した名前が用いられ、ここでは変更できません。
グループ パスワード (参照用)	本装置が属するグループのパスワードが表示されます。 グループパスワードは、管理ソフトウェアで「グループ追加」で設定した文字列が用いられ、ここでは変更できません。
装置名	「装置の一覧」と「検索」で表示される装置名を指定する項目です。 同一グループ内であっても、重複した名前の指定も可能ですが、利用時に識別が困難となるため、ユニークな名前を付けるようにしてください。

・プリセット

管理ソフトウェアの「装置の一覧」にあるコマンド1～4に動作パターンを割り当てます。



設定項目は下記の通りです。

No.1	「装置の一覧」のコマンド1のイナズマボタンで実行する動作パターンを「ユニークな名前」で指定します。
No.2	「装置の一覧」のコマンド2のイナズマボタンで実行する動作パターンを「ユニークな名前」で指定します。
No.3	「装置の一覧」のコマンド3のイナズマボタンで実行する動作パターンを「ユニークな名前」で指定します。
No.4	「装置の一覧」のコマンド4のイナズマボタンで実行する動作パターンを「ユニークな名前」で指定します。

※動作パターンを「未選択」とすることは出来ません。

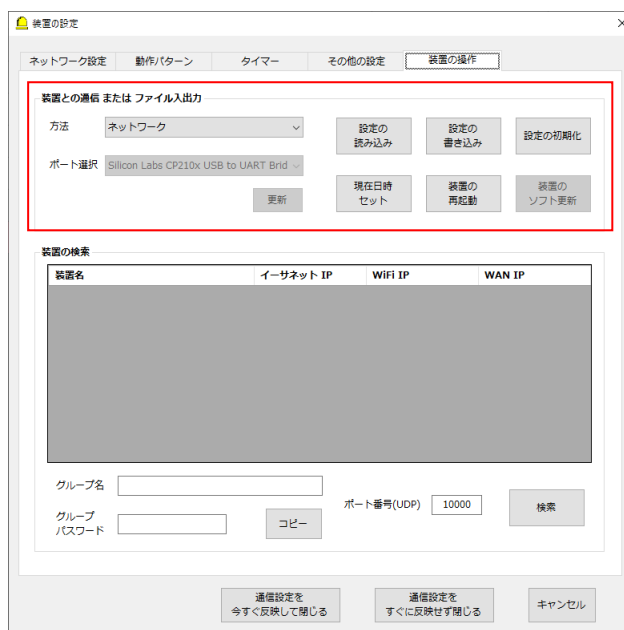
未選択であるのと同じように割り当てたい場合は、動作パターンのタブで、動作パターンが「未選択」となっている動作パターンを選択してください。

2 - 5. 装置の操作

このタブでは、本装置との通信などを行います。

・装置との通信 または ファイル入出力

本装置と管理ソフトウェアとの主に設定に関する通信と、ファイル入出力を行います。



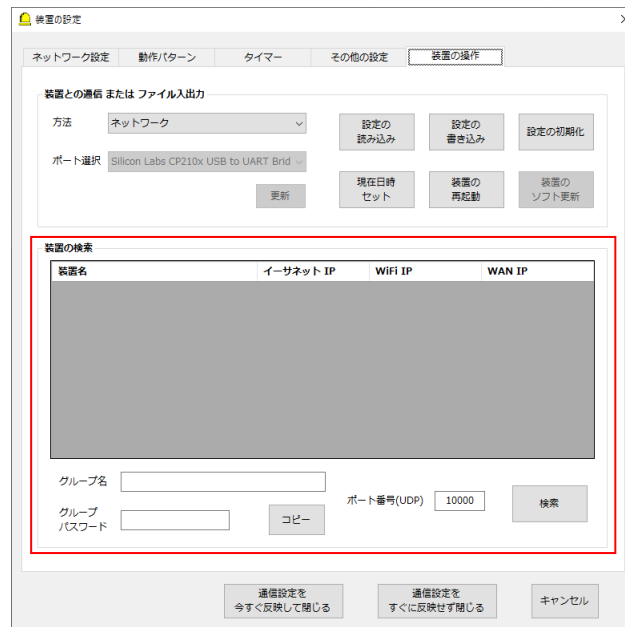
項目は下記の通りです。

方法	<p>通信またはファイル入出力の方法を選択します。</p> <ol style="list-style-type: none">① 「ネットワーク」 本装置と接続された状態であることを条件に、本装置と有線 LAN, WiFi, WAN 経由での通信を行います。② 「USB COM ポート」 本装置と USB ケーブルを介した通信を行います。③ 「ファイル」 本装置とではなく、ファイルで設定データを読み書きします。ここで読み書きするデータは、1 台の装置に関するものです。 (PC Kick Starter 設定ファイル 拡張子.pcks)④ 「装置の検索」 装置の検索で見つかった装置を相手として通信を行います。
----	---

ポート選択	<p>通信に使う USB COM ポートを選択します。</p> <p>「方法」で「USB COM ポート」を選択した場合のみ有効です。</p>
更新	<p>通信に使う USB COM ポートの選択肢を更新します。</p> <p>本タブが表示された後に USB ケーブルを抜き差しした場合、この更新ボタンを押して選択肢を更新してください。</p>
設定の読み込み	<p>装置もしくはファイルから設定を読み込みます。</p>
設定の書き込み	<p>装置もしくはファイルに設定を書き込みます。</p> <p>装置に設定をエラーなく書き込めた場合、装置は自動的に再起動され、新しい設定が有効になります。</p> <p>尚、書き込み時に利用される「グループ名」「グループパスワード」は本設定が属するグループのものが利用されます。</p>
設定の初期化	<p>この「装置の設定」窓に設定されている項目を初期値に戻します。</p> <p>装置内部の設定が初期化される訳ではありませんので、ご注意ください。</p>
現在日時のセット	<p>NTP サーバが利用できない装置に管理ソフトウェアが動作しているパソコンが持つ日時を設定します。</p> <p>この機能により装置に日時をセットした場合、装置を再起動または電源断とすると、本設定はクリアされ無効となりますのでご注意ください。（再セットが必要です）</p>
装置の再起動	<p>装置を再起動します。</p>
装置のソフト更新	<p>装置内部のファームウェアを更新します。</p> <p>ファームウェアは（PC Kick Starter ファームウェアファイル 拡張子.pcfw)として弊社より提供させて頂いたものを利用します。</p> <p>尚、本機能は USB COM ポートによる通信の場合のみ利用可能です。このソフト更新により、装置内の設定が無効となる場合がありますので、「設定の読み込み」→「装置のソフト更新」→「設定の書き込み」として頂くのがより安全です。</p>

・装置の検索

ブロードキャストパケットを利用して、装置の検索を行います。
「方法」で「装置の検索」を選択すると、ここで見つかった装置を対象として装置との間で通信を行えます。



項目は下記の通りです。

グループ名	検索に使用するグループ名を入力します。
グループパスワード	検索に使用するグループパスワードを入力します。
コピー	現在のグループに属する装置を検索する場合、このグループ名とグループパスワードを自動設定します。
ポート番号(UDP)	検索対象となる装置のポート番号(UDP)を指定します。
検索	検索を開始します。

検索ボタンを押すと、検索が開始され、装置が見つかると一覧に装置が列挙されます。この一覧表で選択した装置が、「方法」で「装置の検索」を指定した場合の通信対象の装置となります。

2-6. 閉じるボタン

「装置の設定」には、閉じるボタンが2種類あります。



機能は下記の通りです。

<p>通信設定を 今すぐ反映して 閉じる</p>	<p>この窓で設定した通信条件を以後の通信に用います。</p> <p>固定 IP の場合は設定した IP/Port で通信が行われます。また DHCP の場合は通信が初期化されますので「検索」ボタンで装置を再検索する必要があります。</p> <p>変更した設定が装置に書き込まれていない場合かつ、管理ソフトウェアと装置で異なる通信条件である場合、装置との接続が失われますのでご注意ください。</p>
<p>通信設定を 今すぐ反映せず 閉じる</p>	<p>この窓で設定した通信条件を以後の通信で用いません。</p> <p>この窓を開く前の条件のまま通信を継続します。</p> <p>変更した設定が装置に書き込まれた場合かつ、管理ソフトウェアと装置が異なる通信条件である場合は、装置との接続が失われますのでご注意ください。</p>

装置に設定を書き込んだ場合は前者をクリックし、それ以外は「キャンセル」を押下して頂くとシンプルかと思えます。

その他

本装置および管理アプリケーションを利用する場合、下記の点にご留意ください。

1. 対象パソコンの電源投入

管理アプリケーションおよびタイマー機能により、複数台のパソコンの電源を同時にONすることも可能ですが、パソコンの電源投入時に突入電流が大きい場合、設備ブレーカーが断するなどにより停電となる可能性が考えられます。

パソコンが設置されている場所の電力容量などをご確認の上、数台を1グループにして1分程度時間をずらすことを検討してください。

2. パソコンの電源ボタンの動作

電源ボタン押下による電源OFFは、あらかじめ電源ボタン押下でシャットダウンするようにOSで指定しておく必要があります。

例えば、Windows10 の場合、設定→システム→電源とスリープ→電源の追加設定を選択し、



「電源ボタンの動作の選択」を選択し、



電源ボタンの設定で、「電源ボタンを押したときの動作」を「シャットダウン」にして頂くと良いかと思ます。

3. インターネット経由での本装置との通信

インターネット経由で通信を行う場合は、主にルータ等でVPN接続が行えるようにする方法と、直接ポートを開放して利用する2つの方法があります。

これらの設定については、NTT製のホームターミナル（PPPoE接続）ですと、標準でVPN接続機能が利用可能な場合もございますし、固定IPを安価(月額500～1000円程度)で提供しているプロバイダもございますので、お客様のニーズによって手段をお選びください。

また、リモートデスクトップのご利用方法などは、インターネット上に解説サイトが多数ございますので、そちらをご参照ください。

4. ソフトのアップデート

管理アプリケーションと装置のファームウェアのアップデートについては、適時弊社Webサイトにて必要なファイル等をご提供させていただきますので、ご利用ください。

尚、セキュリティ維持などの都合上、装置のファームウェアのダウンロードは購入者様に限定させていただきます。

各種窓口について

1. サポート窓口

ご購入者様のサポートは、下記サポートメールにて承っております。

support@homesys.jp

2. ご相談窓口

本製品はamazon ネットショップにて販売しております。
また弊社直販も致しておりますので、お気軽にお問合せください。

弊社ご相談窓口にて、事前のご相談も承っております。
弊社ご相談窓口は、info@homesys.jp です。

3. その他

弊社では、電話もしくは来社による対応は致しておりません。
予めご了承ください。